

大雪対策

大雪災害が発生した場合には公助だけでは対応が困難なことから、**自助・共助での取り組みが非常に重要**になります。まずは、家庭内や地域で大雪時の対応について話し合い、あらかじめ大雪に備えましょう。

車で外出する場合の備え

運転中に吹雪や地吹雪等により視界が悪くなったときや視界が真っ白になり何も見えない状況(ホワイトアウト)になった場合は、早めに停車帯やコンビニエンスストアなどへ移動しましょう。雪道を運転する際には、スコップやバッテリーのブースターケーブル、スタック時のための牽引用ロープの他、事故などにより車に閉じ込められる場合に備え、防寒用のブランケットなども入れておくとう安心です。車内で救助を待つときには、マフラー周辺に雪が積もったままエンジンをかけると、排気ガスが車の中に入り一酸化炭素中毒の危険性が生じるので、原則エンジンを切りましょう。

路面凍結に注意

信号交差点

信号交差点のある箇所では、車が発進や停止を繰り返すことによって、圧雪や凍結路面が摩擦熱で解けて、タイヤとの間に水滴ができるため、路面が非常に滑りやすくなる場合があります。

橋梁(橋げた)

橋梁区間では、ほかの区間と異なり夜間には橋の下からも熱が奪われるので、路面の温度が低下しやすく、他の路面が凍っていても橋の上だけは凍結していることがあります。



トンネルなどの出入口

トンネルなどの出入口は日陰になることが多く、局所的に路面が凍結している場合があります。周囲が雪景色の場合には、トンネルの中と外での明るさが極端に異なることで状況が見えにくくなることを踏まえ、トンネル出入口付近での突然の路面変化に備え、走行には注意しましょう。

雪道の歩き方

坂道や横断歩道、バスやタクシーの乗降場所は特に注意しましょう！！

重心をやや前に、なるべく両手をあげて体のバランスを安定させることで転倒を防ぐことができます。急に走ったり、歩く速度を変えるときは特に滑りやすくなるので気をつけましょう。降り積もった雪よりも踏み固められて圧雪や氷となった道の方が滑りやすくなっています。そのため、たくさんの人や車が通る場所は特に注意が必要です。スニーカーや革靴、ハイヒールは雪道で滑りやすいためとても危険です。雪道では、撥水性・防水性に優れており、底が軟らかいゴム製で深い溝がある滑りにくい靴をはくことが大切です。

大雪が降った場合

除雪作業の注意点

雪かきスコップなどの除雪用具を用意しましょう。また、作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。県・市町村は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。住民の皆さんは、**自助・共助の精神に基づき自宅付近の除雪を行うなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください。**ただし、個人敷地内も含め、**除雪した雪は事故やケガの元になりますので道路に出さないでください。**

備蓄をしましょう

積雪により外出できなくなる場合に備え、水(1人1日3リットルが目安)、食料、灯油等の備蓄を確認しましょう。特別な非常食に限らず、普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です。(最低3日分・推奨7日分)



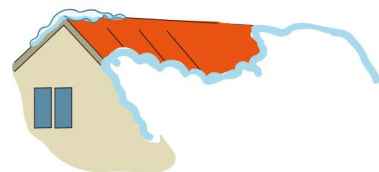
落雪に注意しましょう

屋根の雪が解け始めると、**大きなかたまりになって落下する場合があります。可能な限り屋根の雪を下ろすか、下に物を置かないようにしたり、通行者に注意を呼び掛ける表示をしましょう。**歩行等通行中は足元に注意するとともに、頭上にも十分注意してください。



外出は控えましょう

積雪時には不要不急の外出は極力控えてください。自動車等により雪が踏み固められると除雪が遅れ、交通障害の原因となります。



地域で助け合いましょう

近所にひとり暮らしの高齢者や障がいのある方がいる場合は、地域で協力して助け合いましょう。



地域防災活動の重要性

大規模な災害が発生した場合、行政機関だけで災害に対応することは、極めて困難な状況となります。災害による被害を最小限にとどめるには、自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちで、地域の皆さんが「力」を合わせて行動することが重要です。



自主防災組織を作ろう、参加しよう、育てよう



地域の住民同士が話し合い、いざというときに組織力を発揮できるよう、平常時からみんなで協力し合いながら防災活動に取り組みましょう。

自主防災組織の平常時の主な活動

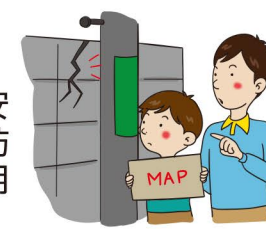
▼ 防災知識の普及

地域住民一人ひとりの防災への関心を高めることが大切です。お祭りや運動会などと併せて防災イベントを実施しましょう。地域の人が多く集まるイベントに防災訓練を組み込むことによって、防災知識の普及につながります。



▼ 防災点検を行う

地域内の危険箇所や、避難先までの安全経路を確認してみましょう。また、防災倉庫の備品の点検や各家庭の防災用品のチェックをしましょう。



▼ 日ごろからのコミュニケーション

災害時の安否確認や、地域での支援活動をスムーズに行うために、日ごろから地域の方とのコミュニケーションをとりましょう。



▼ 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、救急医療品、非常用食品、懐中電灯、ロープ、工具品など必要な資機材を準備しましょう。また、日ごろから点検を行い、使い方も確認しておきましょう。



▼ どんな防災訓練がある?

初期消火訓練 → 地域運動会で水バケツリレー。
炊き出し訓練 → 地域イベント内で炊き出し訓練を行い、みんなで試食。
避難誘導訓練 → ウォーキング大会コースで災害時に危険箇所となりそうな場所の確認。

...その他にも、応急救護訓練や情報収集伝達訓練など防災訓練には種類が多くあります。地域のイベントや吉岡町の総合防災訓練に併せて実施しましょう。

自主防災組織の災害時の主な活動

▼ ご近所の安否確認

自主防災組織で決めた「集合場所」などでご近所同士の安否確認をしましょう。



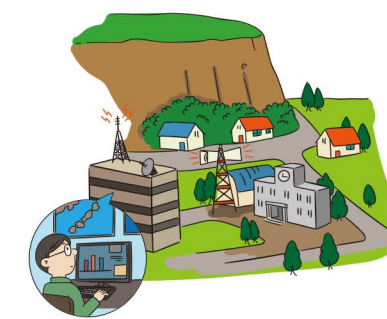
▼ 近所、地域での助け合い

負傷者や倒壊家屋の下敷きになった人たちの救出・救助活動や、火災が発生している場合、初期消火活動を行いましょう。ただし、救出活動や消火活動は危険を伴う場合があるため、決して無理はせず、二次災害に十分注意しましょう。



▼ 情報収集、伝達

災害に関する正しい情報を地域に伝達しましょう。また、地域の被害状況などを取りまとめましょう。



▼ 避難誘導、避難所運営

安全な場所への誘導や、災害時要配慮者の安否確認、避難所の開設や運営、衛生管理を行っていきましょう。

